

高 级



日语口语教程

日本語会話力 トレーニングブック

〔日〕 大原圣兰 编著

教学参考

 上海外语教育出版社
外教社 SHANGHAI FOREIGN LANGUAGE EDUCATION PRESS
www.sflep.com

高级

日语口语教程

日本語会話力 トレーニングブック

[日] 大原圣兰 编著

教学参考

图书在版编目(CIP)数据

日语口语教程(高级)教学参考/(日)大原圣兰编著. —上海:
上海外语教育出版社, 2013

ISBN 978-7-5446-3442-7

I. ①日… II. ①大… III. ①日语—口语—教学参考资料

IV. ①H369.9

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2013) 第 173901 号

出版发行: **上海外语教育出版社**

(上海外国语大学内) 邮编: 200083

电 话: 021-65425300 (总机)

电子邮箱: bookinfo@sflep.com.cn

网 址: <http://www.sflep.com.cn> <http://www.sflep.com>

责任编辑: 曹 艺

印 刷: 上海华教印务有限公司

开 本: 787×1092 1/16 印张 12.75 字数 315 千字

版 次: 2013 年 11 月第 1 版 2013 年 11 月第 1 次印刷

印 数: 1 100 册

书 号: ISBN 978-7-5446-3442-7 / H · 1791

定 价: 23.00 元

本版图书如有印装质量问题, 可向本社调换

前言

尊敬的各位教师：

你们好。感谢你选用《日语口语教程》。

从事日语教育之始，我是这么上课的：朗读例句，学习语法，替换课文的一部分内容，再朗读……然而教科书里的场景和会话，能引发多少学生的共鸣？是不是踩中了他们的兴奋点？没多少人在意。掌握正确的语法，读懂课文……这才是那个年代的“当务之急”。

时代变了，如今重视“用日语交流”的能力。学生不光要听懂对方的话，分析其中信息，也要会表达自己，比如阐述个人观点、平等地交换看法。再者，一个人的谈吐，往往反映着他的认知水准。有的学生说，我明明听得懂对方说的，自己一张嘴，就前言不搭后语了。谈话时牢牢把握论点，不偏不倚，不卑不亢，求同存异……别说是用外语交流，即使用母语也不是一件容易的事！您或许想教会学生这些，可是苦于找不到合适的教材，备起课来费时费力。

《日语口语教程》应运而生。

让学生具备用日语进行口头交流的能力，是本教材的着眼点。学生要想提高口语水平，除了学习日语知识，还应该根据不同的场景调用大量的谈话素材，站在自己的立场上用日语进行思考，进而用日语表达。我利用授课之余编写教材，收集资料，心血凝聚成为《日语口语教程（学生用书）》。而这套《日语口语教程（教学参考）》，则是我授课的经验总结。

您选用本教材，持之以恒地教下去，学生经过初级、中级、高级三个阶段的学习，说起话来将会变得有条有理，言之有物。我甚至建议，您不妨将课堂上学生的成长历程摄录下来，让他们也见证自身的成长。

最后，我想倾听您的授课心得和来自学生的声音。让我们共同完善这套教材，让它效果更好，效率更高，更有魅力。对于我来说，最快乐的事莫过于此。

笔者 大原圣兰

「日本語会話力トレーニングブック」 について

この教科書は会話技能において言語を処理する能力「オーラルプロフィシエンシー」を高めるために開発された教材である。

この教科書で磨かれる4つの能力。

1. 語彙、文法などを使いこなす力(grammaral competence; 文法能力)
2. まとまりのある文章や会話を理解、或は算出する力(discourse competence; 談話能力)
3. コミュニケーションを円滑に進めるための力(strategic competence; 方略能力)
4. その社会で適切に言語を使用する力(sociolinguistic competence; 社会言語能力)

〈会話運用能力テストによるクラス編成〉

本教材を効果的に用いるために、OPI(Oral Proficiency Interview; 会話運用能力を測る面接)によってクラスをレベル別に編成する。それが難しい場合は学習者個々の日本語運用能力にばらつきがないクラス編成にすること。OPIとはACTFL(American Council on the Teaching of Foreign Languages; 米国外国語教育協会)によって開発された汎言語的に使える会話能力テストのことである。教師は参考文献に記した解説書および論文を参考に、会話運用能力を客観的に測ることができるOPIについて知識を深めておきたい。

〈教材のレベル〉

本教材は3部に分かれており、初級にレベルAとB、中級にレベルCとD、上級にレベルEが編成されている。それぞれのレベルと目標については以下の通りである。なおこのレベルはOPIの判定基準に基づいている。

レベルA

個別の単語と丸暗記した句を使って、習ったことのある場面に限り、最低限のコミュニケーションを行うことができる。単純な語彙を探したり、自分自身や相手の言った言葉を繰り返し使おうとしたりして、言葉がしばしば途切れる。語彙が足りなかったり、正確さに欠けたり、適切に答えられなかったりするために、外国人に慣れていて好意的な相手さえ、理解するのが難しいことがある。

目標:基本文型・文法を身に付けながら日本人の会話のスピードに慣れ、既習事項を確認、アウトプットできるようになる。自然なスピードで話せるようになるための土台を完成させる。日常生活においてすぐに役立つ表現を身につける。日本文化と中国文化を比較できるようになる。個々の学習者に向けたパーソナルな質問に答えていく過程で「もっと伝えたい」というモチベーションを高める。

レベルB

学習者は主として受け身であり、直接的な質問に答えたり求められた情報を提供しようとしたりするので精一杯である。しかし、数は少ないが、適切な質問をすることもできる。すでに知っていることと相手から聞いたことを組み合わせたり組み替えたりしながら短い文章を作って、自分の意図することを表現する。思っていることを言語に置き換えようとしているときは、適切な文や語句および語彙を探そうとして、何度も言いよどんでしまったり、努力しても不正確な話し方になったりすることが多い。頻繁に途切れたり、語句や文の再構成を試みても無駄に終わってしまったりする。誤解されて言葉を繰り返したり言い換えたりしなければならなくなることが多いとはいえ、好意的な対話の相手、特に母語話者でない人に慣れている相手であれば、普通理解してもらえる。

目標:日常生活で使えると便利で役立つ表現を数多く習得し、より豊かな表現力を身につける。衣食住やマナーなど身近な話題の中で、必要な情報を相手から引きだし、伝えられるようになる。間違いを恐れずに発話する積極的な姿勢や、仲間とプランをたてて実行していく調整力を身につける。

レベルC

職場、学校、余暇活動、特定の関心事や専門的分野に関係した基本的な情報のやりとりなどさほど複雑でないタスクや社会的状況ならうまく対応できる。話題が広がってくると意味的や統語的に叙述や描写を維持することに失敗したり、語彙の広がりや適切さに欠けたりして言いよどむ。思っていることを言おうとして適当な語彙やふさわしい文型を探しているとき、発話が途切れたり、文や語句を再構成したり、自己訂正したりすることがある。語彙・発音・文法・統語のいずれか、またはいくつかが正確でないために誤解されることもあるが、好意的な相手にはほぼ理解してもらえる。

目標:文章をつないで、複雑な内容を伝えられるようになる。日常会話に加え、ビジネスや留学に役立つ日本文化やマナー、時事問題を日本語で討論する。「ただ単に聞かれたことに答える」というのではなく自分からプラスアルファの情報を提供したり、より具

体的な情報を引き出したりするなど、積極的なコミュニケーションが図れるようになる。日常的な場面で必要な部分において敬語の習得が完成する。

レベルD

学校・家庭・余暇活動に関係した内容について、活発に会話に参加する。また、仕事や最近の出来事・個人的・一般的な関心事について、または自分に関連のあることについても参加することがある。相手を誤解させたり混乱させたりすることなく、自分が意図したことを伝えることができるだけの十分な正確さ、明快さ、適切さを持って会話に参加でき、外国人との会話に慣れていない日本人にも理解してもらえる。ただしレベルEで要求される機能の遂行や話題を扱おうとする場合は、質的にも量的にも明らかに言語レベルは低くなってしまう。

目標:身近な話題から海外、ビジネスなど、様々な場面に自信を持って対応できるようにする。

適切な文法や構文、自然なリズムやイントネーションと発音で発話する。自分の意見をただ述べるだけでなく、相手の意見を理解し、調整できる力を身につける。不得意な分野や、会議・議論などの多少複雑な会話でもポイントをおさえれば内容を理解できるようになる。ビジネスマナーや知識、文化的背景を十分に把握し、相手を不快にさせることなく深い会話ができるようになる。

レベルE

多くのコミュニケーション・タスクを、楽に、また自信を持って扱うことができる。ほとんどのインフォーマルな場面と限られたフォーマルな場面でのやりとりにおいて、活発に参加することができる。言い換えたり、回りくどい表現になりながらもなんとか説明したり、例を挙げたりするなどのコミュニケーション・ストラテジーを自在に使いこなして、自分の文法的弱点や語彙不足を補う十分な力を持っている。複雑なタスクを遂行するように要求された場合は時々言語的挫折を起こし、不適切さを露呈する可能性がある。または、難しいタスクを避ける可能性もあり、例えば、議論や仮説を構成する代わりに、描写や叙述に終始して、平易な方法に頼るかもしれない。

目標:さまざまな場面で、状況や相手との関係に合った知的な会話を楽しめるようになる。学習者自身が議論の中で相手の論理的矛盾を見抜き、話の流れをコントロールする。学習者が会話のイニシアティブを取れるようになり、センテンスを論理的に構成しながら話すようになる。広範な話題に対処できる語彙を身につけ、個々の性格や社会的地位、日本語の流暢さに相応しいセンテンスを身につける。ビジネスで不可欠な考え方を十分身につけ、企業の中でリーダーとしての資質を十分に発揮できるようになる。中日の文化だけでなく世界の主要な文化を背景に、一定の分野においては、日本を出たことがない日本人を超える表現ができるようになる。

〈レッスンに際して教師が留意すること〉

学習者用教科書の「はじめに」の中で、学習者に対しての思いを伝えると同時にレッスン受講に際して留意しておくべき事項を記したが、大切な事項なのでここに再度記す。

* * * * *

教師は

1. 学習者の意見を引き出すこと、言いたいことを的確に日本語表現できるよう補助すること、流れを整えることの三点に留意しますが、学習者の会話の流れをとめてはいけません。
2. 教壇から生徒に向かって「知識を与える」のではなく、学習者同士の会話の中に自分を置き、学習者の会話が日本語としてうまく成立するようサポートをします。
3. 「このレッスンをすることで学習者は何ができるようになるのか」という視点を常に持ち、レッスン内の語彙や文法に縛られないようにします。
4. レッスン中、対応レベルより少し難しめの質問をいくつか混ぜるようにし、より高いレベルの表現にチャレンジする機会を学習者に与えます。学習者がうまく対応できず会話ができないと判断したときはレベルを元に戻します。
5. ビジネスに関しては表面的なマナーだけではなく、なぜそのようなマナーがあるのか、どのような考え方でどのようなをすると日本人社会でより高く評価されるのかという視点を伝えます。
6. 学習者の最終目標を「ネイティブ並の日本語」にすることはできません。中国と日本の文化や考え方を踏まえた「ネイティブを超える日本語」を話せるようにサポートします。
7. 学習者の意見をサポートする教師自身も様々な分野に関する知識を持ち、論理的に考え、自分の意見を構築し、相手に効果的に伝えることができるようにしておかなければなりません。

〈レッスンの流れ〉

百人の教師がいれば、百通りの教え方がある。そもそも会話は一定の流れが決まっておらず、それに反応することも必要な能力であるから、流れについても個々の教師が工夫してマンネリに陥らないようにしなければならない。とはいうものの、日々授業の準備に追われる教師にとってそれは必ずしも容易なことではない。また初級の学習者にとっては一定の固定した流れの中で次の展開を予想させたほうが安心して練習に臨めるというケースもある。以下のレッスンの流れは必ずしも「こうしなければならない」というものではなく、参考程度にとどめて、ユニークで個性あふれる授業が展開されることを願っている。

〈導入〉

ユニットタイトルや導入文を参考に、学ぶ内容に関する話題を教師が提供しつつ、気持ちをセットアップする。単語リストを配りたいならばコピーして配ってもよい。時間が許すのであれば聴力向上トレーニングの一環として、教師が単語の意味を板書で補いつつ、口頭で説明する。

〈内容理解 1:冒頭〉

- 初級…教師主導による冒頭会話や写真、イラスト等の理解および発音チェック
- 中級…学習者主導による冒頭会話や写真、イラスト等の理解および発音チェック
- 上級…学習者による冒頭会話や写真、イラスト等の理解、ユニットに関する自由会話

〈内容理解 2:練習しましょう〉

「練習しましょう」をもとに会話を練習する。問題は1から順に徐々に難しくなるが、最後の問題はやや軽く簡単になっている。最後に「会話を楽しめた」という印象を残してユニットを終えることができるのであれば、問題の順番は入れ替えてもかまわない。教師は補佐役となり、学習者が会話を展開していくのを手伝うこと。

〈内容理解 3:付属音声〉

- 初級・中級…付属音声の問題部分を聞いて、自分なりの答えを言う。ぶつぶつとつぶやく感じでよい。その後付属音声の回答部分(日本人による回答例)を聞いて、スピードや話す内容を確認する。録音はユニットの練習問題と全く同じ内容のものを基本に、単語等内容の一部を変更したものも混ぜてある。
- 上級…予習段階で付属音声の日本人の会話や問題解説を聞いて、自分の意見構築の参考とする。

〈内容理解 4:まとめ〉

初級や中級で、内容理解3の聞き取りができなかった場合は、該当ユニットを本質的に理解していないと思われる。同じユニットを再度執り行って再度聞き取り回答に臨むか、あるいは付属音声の単語や内容の説明をした上で再度聞き取り回答をさせる。

上級においては関連する国内外時事問題等に発展させる。十分な力がある場合は、ほかの学習者の意見を即座に母語に通訳する練習も取り入れたい。

〈日本語会話能力をトレーニングするにあたって〉

日本語を運用するには「相手の話を聞き取る力」と「自分の考えを説明する力」が必要である。このうち聴解力については多くの良書が出ているのでそれを頼ることにして、後者の「自分の考えを説明する力＝説明力」を磨くための教材として本書を執筆した。この教科書を用いた継続的な指導があれば、学習者は課題に応じて必要な資料等を探して意見を裏付

け、基礎的・基本的な知識を活用し、思考を深めたりまとめたりしながら説明する能力をつけていくことができるようになる。

説明力は、論理的な意見の構築力と広義の表現力とで構成される。「中国の学習者は欧米系の学習者に比べて論理的に説明する力が弱い」という指摘はよくされるし、論理な意見の展開は確かに身につけるべきなので、本書でも論理的な意見の構築力を高めるような設問を散りばめている。ただし、他者との円滑なコミュニケーションに躓く学習者をよくよく観察してみると、論理的な意見の構築力を鍛えるだけでは会話力強化に繋がらないことに気づかされる。むしろ私が見てきた学習者のコミュニケーションの場では、論理の弱さより表現力の乏しさが説明不足を生み、ネイティブ日本語話者との関係に軋轢を生じさせていた。そこで描写力や表現力が高まるような設問を意識的に多く設定するよう留意した。

また、スムーズな会話運行には「相手に自分の言いたい事を理解してもらう」という行為における、表現の質の高さに支えられた訴える力の強さが求められる。円滑な人間関係を構築しようとするならば、説明によって心情的に共感するレベルにまでいかないと難しい。そのためには、まず自分が話す相手を意識しなければならない。相手を意識した説明は、自分に関する説明しかできないような初級の段階からでもしっかり心がけさせておく必要があり、学習経験を重ねる中で、より踏み込んだ相手分析ができるよう指導を重ねていかななくてはならない。相手の分析をさせ、それを踏まえた説明すべき事柄を整理させる。説明の為に収集した情報を吟味して取捨選択する力と、情報の正確さを確かめる力を本書で培っていく。設問の「調べて話し合しましょう」の場面ではぜひそれを意識して話し合いたい。

この教科書を手に取った教師は「日本語会話力トレーニング」と銘打っているにも関わらず「〇字で要約しましょう」といった書く練習が含まれていることに気づくであろう。会話力にライティングの力は必要がないと思われるかもしれないが、文章の要約は会話力アップに確実に影響がある。要約する過程で文章のポイントを掴もうと集中するし、何度も推敲することで言語感覚が磨かれる。この試行錯誤の過程を経験することは、話し言葉による説明をする際に役立つ。授業で会話力を鍛える中で「要約する」という作業を取り入れたい。

さらに教師には、授業などの公的な場における説明力の育成への取り組みを学習者の私的な場での説明に反映させること、その手だてを考えていただきたい。授業の場限りのものにならないように、日常における説明の場との関連性を学習者に意識させる取り組みが必要である。学習者に「うまく説明できた」という、成果を感じることの経験が、授業などにおける説明力を鍛える場の意欲へと結びつき、さらにうまく日本語を運用していくことができるようになるという好循環を生む。日本にいるわけではない我々がそのような場を設けることは簡単な事ではないが、そこは皆様のアイデアでもって乗り越え、それぞれの教育現場の事情にあわせた生きた会話練習の場を設けていただくことを切に願っている。

この教科書は華東師範大学の陸留弟教授の温かい励ましなしには日の目を見る事はなかった。また、私の周囲にいる大切な日本語教師仲間の協力と数百名を超える可愛い学習

者達からの7年越しのフィードバックで教材として形が整った。上海外語教育出版社編集者王俊さんと曹藝さんからは適切かつ信頼おけるアドバイスをいただいた。そして上海テレビ外国語チャンネル「中日之橋」呉四海さんからは日本語を正しく美しくとらえ、伝えていくことの素晴らしさを学んだ。ここに深く謝意を示したい。

大原聖蘭

www.oharashoran.com

mail@oharashoran.com

参考文献

1. 荻原稚佳子・齊藤真理子・伊藤とく美（2007）『日本語超級話者へのかけはしー上級から超級へ きちんと伝える技術と表現ー』スリーエーネットワーク。
2. 鎌田修・嶋田和子・迫田久美子（2008）『真の日本語能力をめざしてープロフィシェンシーを育てるー』 凡人社。
3. 鎌田修・堤良一・山内博之（2009）『プロフィシェンシーと日本語教育』 ひつじ書房。
4. 山内博之（2009）『プロフィシェンシーから見た日本語教育文法』ひつじ書房。
5. 末田美香子・徳田有紀子・長松谷有紀（2010）「日本語 OPIによる学部留学生の口頭表現能力の問題点：恵泉女学園大学学部1年次の留学生を対象として」『恵泉アカデミア』 14， 20-35。
6. 張毅（2010）「中国における日本語学習者の会話能力の測定について ——skype によるOPIインタビューの試み」『比較社会文化研究』 29， 53-60。
7. 向山陽子（2010）「言語適性と第二言語の会話能力との関連 ——会話能力を予測する適性要素は何か」（佐々貴義式（佐々木嘉則）先生追悼記念号）『言語文化と日本語教育』（39）， 60-69。
8. 山川史（2011）「学習者のヘッジ使用 OPIにおけるレベル別会話分析」『日本語教育研究』 57， 124-142。

目 次

E01	お噂は耳にしております ……………	1
	(会話で好印象を残す)	
E02	あの頃に戻りたい ……………	10
	(過去の自分の行動を悔やむ)	
E03	社会と都市基盤 ……………	17
	(都市の発達を基礎に社会問題を議論する)	
E04	どんなケアがお好みですか? ……………	23
	(医療や治療について議論する)	
E05	ある状況下ではそうでしょうね……………	31
	(相手の話の矛盾点や疑問点を指摘する)	
E06	カタカナ語が増えたなあ! ……………	41
	(外来語について話し合う)	
E07	ご質問はありますか? ……………	48
	(面接について話し合う)	
E08	そこは重要視しません ……………	59
	(自分の選択を述べ、相手を納得させる)	
E09	たぶん哺乳類じゃない? ……………	66
	(生き物の描写と絶滅危惧種について)	
E10	どっちがエコでしょ〜?! ……………	76
	(環境保護と自分の行動の選択)	
E11	50 年後には… ……………	84
	(未来に起こりうるであろうことを予測して伝える)	

E12	暮らしにこだわっています！	89
	(暮らしに対する考え方やこだわりを他人とシェアする)	
E13	そういうわけではありません	96
	(説明や結論を上手に述べる)	
E14	私次第です	106
	(課せられた責務と権限について話し合う)	
E15	眉唾ものだと思うけどなあ…	115
	(キャッチコピーや商法について話し合う)	
E16	被告人を無期懲役に処す	122
	(法概念の理解と論証)	
E17	同じ空の下で	130
	(世界の子どもたちの笑顔のために、今私たちがすべきこと)	
E18	私たちを取り巻く景観と暮らし	138
	(景観と人々の暮らしについて話し合う)	
E19	一番大切な事は？	146
	(最優先の事柄を人に伝えて共感を得る)	
E20	えっ遭難?!	153
	(重要さの順位付けと不要なものの切り捨て)	
E21	モラルに反することだと…	159
	(モラル感覚の違いを踏まえて議論をする)	
E22	世界の飢餓を知ろう	166
	(食糧問題について話し合う)	
E23	向かって左上の角に…	174
	(芸術について豊かに表現する)	
E24	論理的に話してくれませんか？	182
	(より建設的な意見を交換するために)	
E25	心のヒーローが必要だ！	186
	(素養として知っておくべき著名人やその考え方について語る)	

お噂は耳にしております

会話で好印象を残す

〈このレッスンの目的〉

1. 初対面の人に好印象を与える重要性についての理解
2. ビジネスで雑談をする能力
3. 会話が弾むコツに関する知識・理解・表現

〈練習しましょう〉

1 次の話し方は、どんなシチュエーションでするのが自然でしょう。下の語句から選んで、続きを考えましょう。

- a 野球の大ファンだと伺っておりますが…(A)
- b 佐藤君とは長いつきあいなの? (B)
- c おや、飲み物、何かお持ちしましょうか? (D)
- d あなたの大ファンです! (C)

★ 異業種パーティー＝いろいろな業種の人が集まって交流するパーティー。おもに人脈を広めるために行われる。

2 以下のシチュエーションのとき、どのように会話を始めますか。

a) 〈例〉

「弟に聞いたんですけど、旅行がお好きなんですか?」

「弟から聞きましたよ、ドイツ語がおできになるんですね!」

b) 〈例〉

「どんな切手を主に収集なさっているんですか?」

「サッカーの大ファンでいらっしゃるんですってね!」

「日本でも昔に比べてサッカーが盛んになってきましたね。」

c) 〈例〉

「タイからお越しになったんですってね。もう日本には慣れましたか？」

「タイとこちらでは全然環境が違いますか？」

3 どんな話題のときに話が弾むと思いますか。考えて話し合しましょう。

○ 共通性の高い話、旅行、健康、グルメ等、誰でも興味がある話

× 自慢話、愚痴、自分の趣味

話を弾ませるためには以下のような「聞く態度」を見せるとよい。

- 相手の話をまとめようとするより、相手にそのときの気持ちを質問する
- 相手の期待する反応をする
- 相手の聞いてほしい質問をする

4 話の途中に「聴いていますよ」という感じを出す為に、日本人はよく「相槌」をうちます。相槌には効果があると思いますか。なぜですか。

聞くことには「提案力の向上」「交渉力アップ」「対人関係をスムーズにする」という主に三つの利点がある。提案や交渉には相手の状況や希望、真意を探ることが必要。聞くことで情報が増え、選択肢が広がる。

〈例〉

できるだけ和やかに楽しい雰囲気を作るために、同意の感情を相手に見せることはいいことだと思います。相槌はそういう同意の気持ちを示しつつ「もっと話を聞きたい」という感じを出すために有効だと思います。

5 日本人が話題を探るとき「木戸に立ちかけし衣食住」を参考にします。どのような内容ですか。それぞれのキーワードについて話をしてみましょう。

「木戸に立ちかけし衣食住」とは、日本人が会話の糸口を探すときに用いる話題の頭文字を並べたもの。＝「季・道・ニ・旅・知・家・健・仕・衣食住」

キ：季節「桜の花がきれいに咲きましたね、我が家も庭に花を育てていて…」

ド：道楽「カメラをなさると伺いましたが、最近は何んなものを撮っていますか」

ニ：ニュース「プロゴルファーの宮里藍ちゃんって本当にかわいいですね」

タ：旅「最近、どこかにお出かけになりましたか？」

チ：知人「木村さんが転勤したそうですか…」

カ：家族・家庭「先日、ご家族でいらっしゃいましたね。娘さん、お父様似ですね～！」

ケ：健康「お顔の色がいいですね、何かスポーツをされていらっしゃるんですか」

シ：仕事「営業のお仕事、びったりですね」

衣：衣服「今日のコーディネート、素敵ですね」

食：食べ物「会社の近くでおいしいお店を見つけました。今度一緒にいかがですか」

住：住居「〇〇にお住まいなんですね。友人がいるので何度か行ったことがあります
が…」

最近では「たちつてと、なかにはいれ」を合い言葉にする人も多い。

タ：食べ物、飲み物の話。誰でもおいしい食べ物には目がない。

チ：知識。「北海道の新聞社の人から聞いたんだけど、世界で一番観光客の多いのは、
千歳空港なんですって」と、話題をふれば、空港の話から旅行の話と、次々に話題が
広がる。

ツ：通勤がらみの話。都会では、通勤ラッシュのこと、女性専用車輦の話。地方では車
通勤に絡んで、道路事情、沿線の住宅事情も話題になる。

テ：天候。四季がはっきりしていて季節の移り変わりを感じやすい地域では天候の話
は尽きない。

ト：相手と自分が共通に知っている友達、出身校の先輩。

ナ：名前の意味や由来、読み方など。珍しい姓であれば、それだけで話が咲く。

カ：家族。核家族、共働きの時代についてなど。

ニ：ニュース。テレビや新聞で伝わる全国、全世界のニュースはビジネスパーソンの
共通の話題。

ハ：流行、トレンド。相手が流行のものを持っていたら話題に取り入れたい。

イ：異性。男性、女性の話題。男女の違い、特徴からくる話題。

レ：レジャー、趣味。自分の趣味にさらりと触れてから相手に趣味をきくと唐突な感
じがしない。

7 会話が弾むコツはなんだと思いますか。話し合しましょう。

- 相手の話に興味を持って聞く。
- ニュースなど話題になりそうなものを見たあとに、ちょっとした会話展開を想像、頭
の中でやり取りを練習しておく。
- 自分の話より相手の話を中心にする。
- 相手の話のトーンにあわせて表情を変える。
- 手を隠さず、心持ち相手の方へ身を乗り出して聞く。

〈発展〉

学習者はレッスンの内容を理解していますか。教科書付属音声流して確認してく
ださい。

★「参考となる表現」の音声流れます。音声と同じスピードで話すことができます
か。

★問題を解く鍵について、日本人が自由に会話をしています。会話を聞いて日本人の
視点や考え方について改めて話し合しましょう。

〈「参考となる表現」スクリプト〉

学生用教科書参照

〈「練習しましょう」参考音声〉

1 次の会話の続きを考えましょう。

a 野球の大ファンだと伺っておりますが…

b 佐藤君とは長いつきあいなの？

c おや、飲み物、何かお持ちしましょうか？

d あなたの大ファンです！

A これは、どんなシチュエーションでの会話を…会話なのかっていうことを思い浮かべることができればもうOKですよ。

B そうですね、それがわかれば、だいたい何を言うべきかわかりますよね。

A そうですよ。ま、どこから行きます？

B そうですね、ま、えっと、大ファンが2つありますけど、下の「あなたの大ファンです」だったら、これは多分あの相手は、えー…。

A 有名人か、アイドルかっていう感じですよ。ちょっとあの、そういう商売をしていない人に向かって「あなたの大ファンです」ということはあんまりないですよ。

B まああの、可能は可能ですけど、あの場面と言い方によってはちょっと引かれちゃうかもしれないですよ。

A うん、引く、引く、引きますよね。あともう1つの「大ファン」は、「野球の大ファンだと伺っております」だよ。

B ま、これはでも敬語ですから恐らくあの、それなりに丁寧に話さなくてはならない、あの、でも恐らく初めて会ったような感じですから、まあ、これあの一、選択肢が実は教科書にもありましたけど、仕事上の取引先とか、そういう、っていうのが、ま想像つきますかね。

A そうですね。で、cは「おや、飲み物何かお持ちしましょうか」みたいな話でしたよね。

B はい、まこれはあの、この言葉だけからだ結構難しいですけどね、例えばレストランの、あの、えー、人も言うかもしれないですけども、ウェイターとかも。でも、ま、この場合会話で「何かお持ちしましょうか」っていうのでやはり立食パーティということがイメージできれば、あの、あとはわかりますかね。

A そうですね。で、最後に残っている「佐藤君とは長いつきあいなの？」っていうのは、まあ共通の知人。

B そうなんですよ、佐藤君のことを2人とも知っている人の会話と。